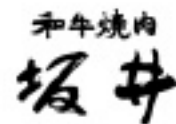


平成20年3月期 決算説明会資料



会社概要 (平成20年3月末現在)

【 商 号 】	株式会社焼肉屋さかい
【 本社所在地 】	愛知県名古屋市北区黒川本通2-46 黒川ビル3F
【 設 立 】	昭和55年5月
【 資 本 金 】	23億63百万円
【 従業員数 】	正社員 216名
【 売 上 高 】	114億67百万円(非連結)
【 店 舗 数 】	直営 92店舗 FC 82店舗
【 事業内容 】	焼肉屋さかい、炭火焼肉屋さかい、和牛焼肉坂井 鮮魚料理まるさ水産、元町珈琲、 しゃぶしゃぶすきやき清水、ポテッチ、とりボックス 上記業態の直営店舗運営ならびに フランチャイズチェーン本部運営

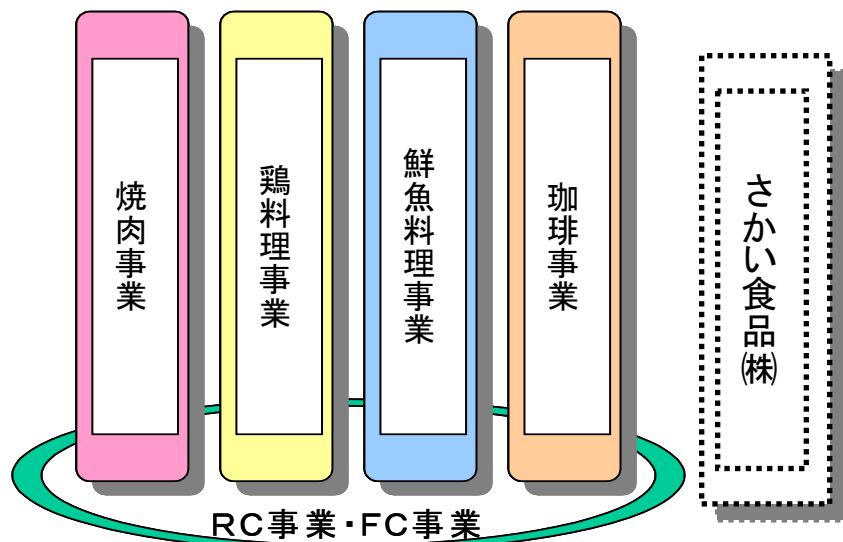
当社の事業概要

H19.3.31の事業構造図

1. 子会社さかい食品を精算し、単独決算に。
2. 新株予約権の行使により(有)グランドディッシュが親会社に。
3. 決算期を4月20日から3月31日に変更。

親会社
(有)グランドディッシュ

持株比率73.4%

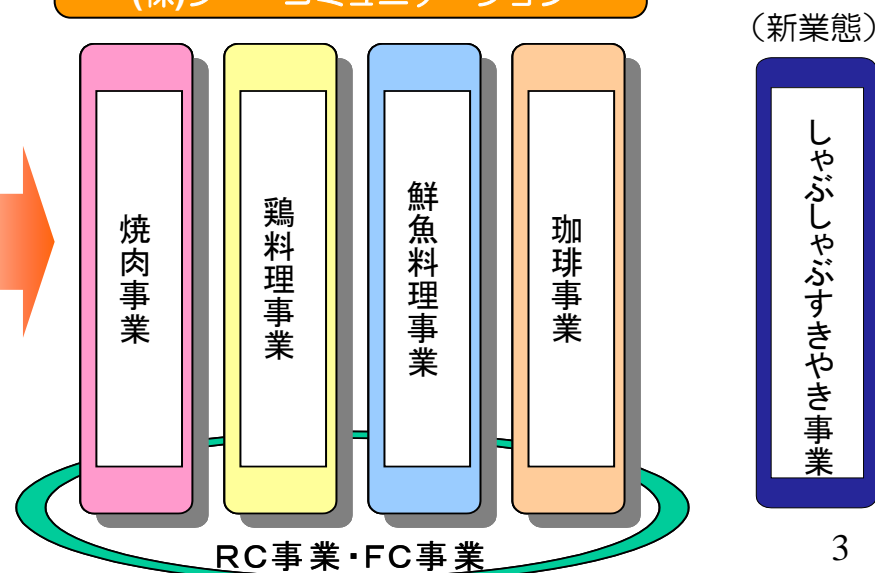


H20.3.31現在の事業構造図

1. 平成19年5月28日、(株)ジー・コミュニケーションが51.5%の株式を取得し、親会社に。
2. 「しゃぶしゃぶすきやき業態」をグループ会社より譲受し、新たな業態に進出
3. 珈琲業態において、初めてとなるFC店舗を出店し、FC本部運営を開始

親会社
(株)ジー・コミュニケーション

持株比率51.5%



平成20年3月期 決算概要

H20年3月期 決算サマリー

(単位:百万円)

		個別			
		当期	前期	前年差異	% (増減率)
PL	売上高	11,467	12,317	△ 850	-6.9%
	営業利益	813	△ 131	944	-
	営業利益率	7.1%	-1.1%	8.2%	-
	経常利益	688	△ 248	936	-
	経常利益率	6.0%	-2.0%	8.0%	-
	特別損益	2	△ 487	489	-
	当期純利益	654	△ 777	1,431	-
BS	総資産	6,288	8,438	△2,150	-25.5%
	純資産(株主資本)	1,480	855	625	73.0%
	有利子負債	3,528	5,955	△2,427	-40.8%

1. 売上高は昨年同期に比べ8億50百万円減少し、114億67百万円(純売上への変更含)。
2. 営業利益は前年対比で944百万円改善し、8億13百万円
3. 経常利益は営業利益ベースの改善と支払利息の減少から9億36百万円改善し、6億88百万円。
4. 資産除却、減損損失の大幅な減少から、当期純利益においても14億31百万円改善し、6億54百万円
5. 総資産は借入金の返済が進み(59億→35億に)24億円強減少して35億28百万円に。
6. 純資産は5期ぶりの当期純利益の計上により、当期末で14億80百万円に。

平成20年3月期 損益計算書

区分	決算期	上期		下期		当期			前期		
			構成比		構成比		構成比	増減額	増減率		構成比
売上高		5,958	100.0%	5,509	100.0%	11,467	100.0%	△850	△6.9%	12,317	100.0%
RC売上		4,568	76.7%	4,245	77.0%	8,814	76.9%	△742	△7.8%	9,556	77.6%
売上原価		2,328	39.1%	2,127	38.6%	4,455	38.9%	△276	△5.8%	4,731	38.4%
売上総利益		3,630	60.9%	3,382	61.4%	7,012	61.1%	△573	△7.6%	7,585	61.6%
販売管理費		3,207	53.8%	2,991	54.3%	6,198	54.1%	△1,518	△19.7%	7,716	62.6%
営業利益		423	7.1%	390	7.1%	813	7.1%	944	-	△131	△1.1%
経常利益		357	6.0%	331	6.0%	688	6.0%	936	-	△248	△2.0%
当期純利益		349	5.9%	305	5.5%	654	5.7%	1,431	-	△777	△6.3%

◆売上高 11,467百万（前期比 △850百万円）

RC売上 8,814百万円（前期比△742百万円）

上記のうち販促券の計上変更により販売促進費から売上値引へ（総売上→純売上）△368百万円

FC向け売上 2,512百万円（前期比△184百万円・・・卸販売額の低減、その他一部FC請求費用の廃止）

◆営業利益 813百万（前期比 944百万円増）

店舗におけるロス管理及びシフトコントロール強化、業務内容の見直しによる本部をはじめとする間接費用の減少

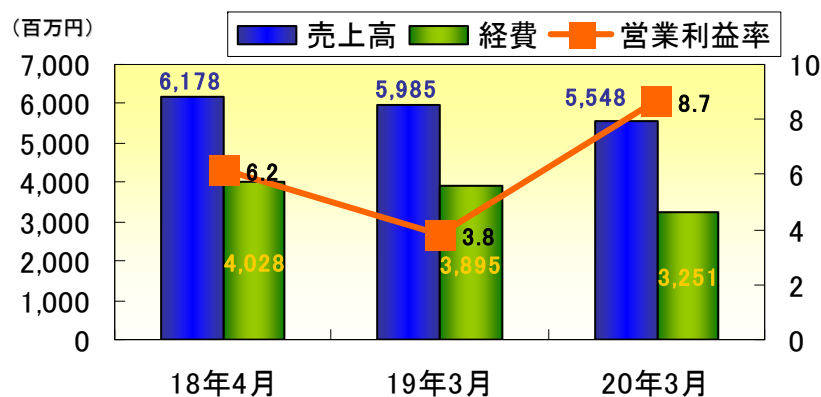
◆経常利益 688百万（前期比 936百万円増）

税引前利益 691百万（前期比 1,426百万円）

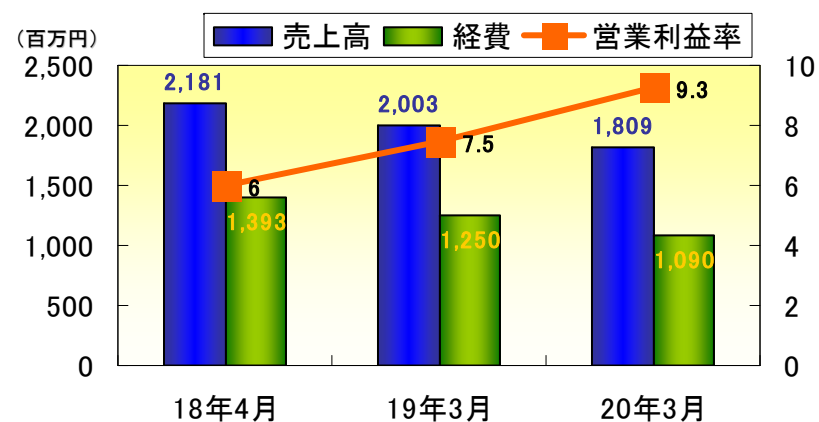
当期純利益 654百万（前期比 1,431百万円） ★税務上の繰越欠損金により税負担軽減

店舗収益の推移

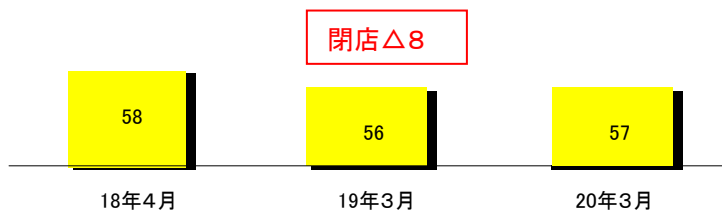
【焼肉屋さかい 3年間の収益推移】



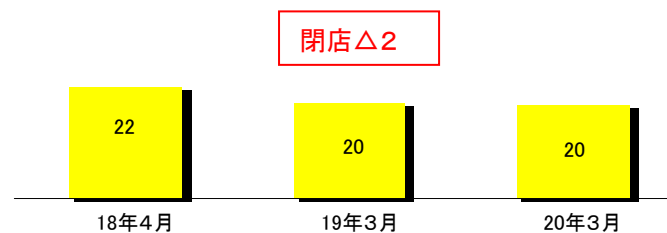
【炭火焼肉屋さかい 3年間の収益推移】



焼肉屋さかいRCの店舗推移



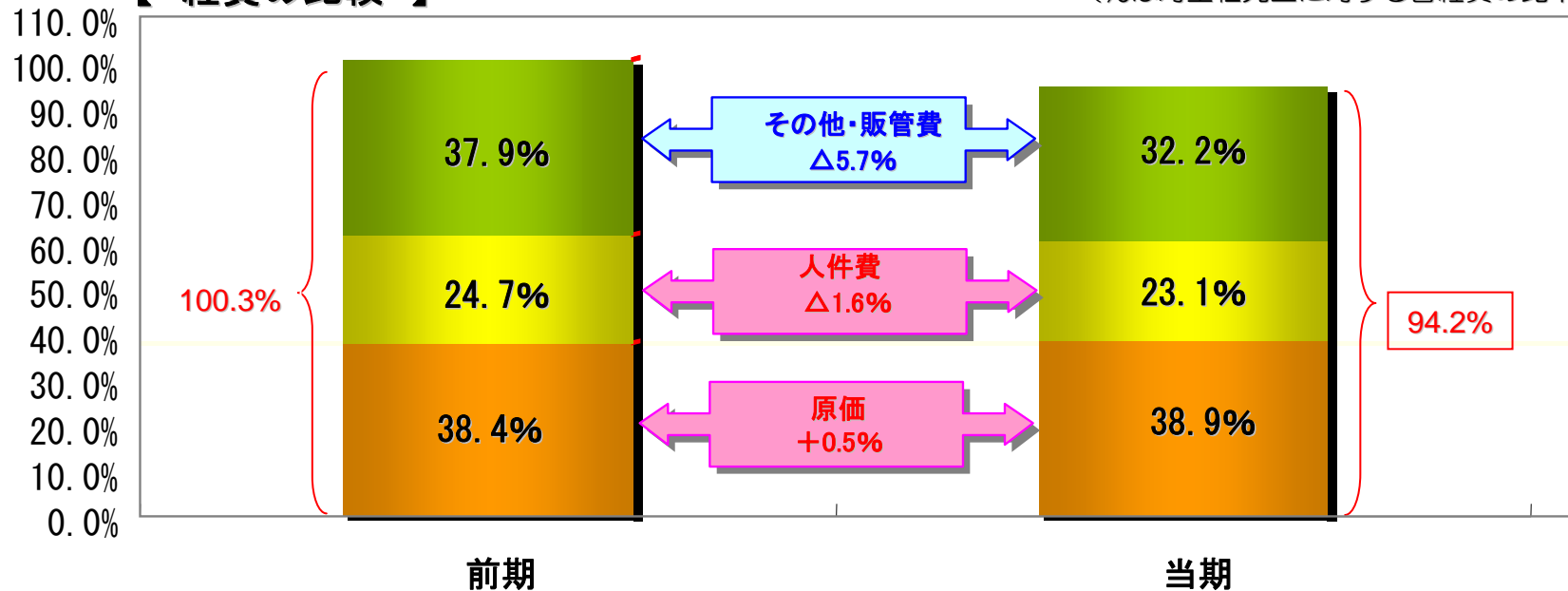
炭火焼肉屋さかいRCの店舗推移



営業費用の状況

【 経費の比較 】

(%は対全社売上に対する各経費の比率)



1. 当期の原価率は表面上は0.5%増加しておりますが、売上値引368百万円について、前期と同様に控除前の総売上基準とすると 37.6%となり、実質的には0.8%減少
2. 人件費については金額ベースで前期比402百万円の減少
3. その他・販管費は、新しい企業グループのメリットを生かし、開発部門の移譲、その他間接部門の圧縮と前事業年度における減損損失計上により、償却費などの固定費が減少

本部経費の削減

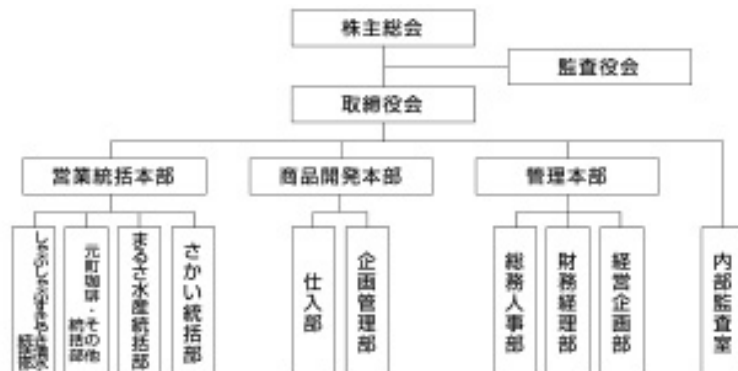
【本部コストの内訳】

(単位:百万円)

	18年4月	19年3月	対前年	20年3月	対前年
人件費	625	506	-119	360	-146
不動産コスト	450	399	-51	159	-240
その他	810	699	-111	398	-301
販管費計	1,885	1,604	-281	917	-687

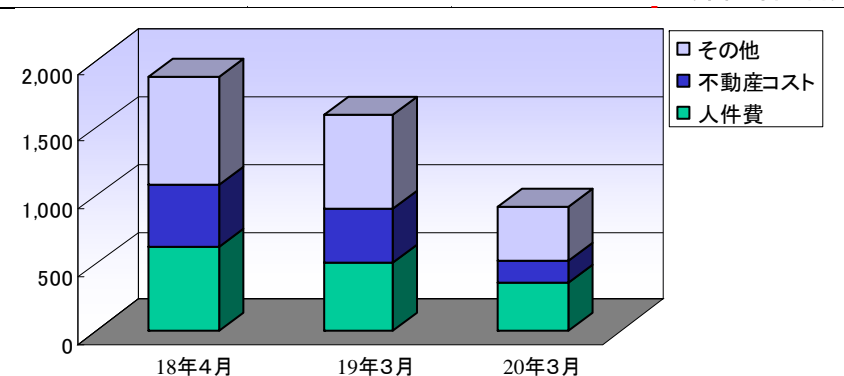
1. 本部業務の再編、見直し及び開発部門などのアウトソーシングにより、人件費が減少し、通期で1億46百万円の減少。
2. 休業店舗のリストラによる賃料負担や前期における減損損失計上による償却費負担の軽減により、不動産コストにおいて2億40百万円の減少
3. 運賃や消耗品などのコストカットを行い、また本部主導による販促活動について、収益構造の構築のため意図的に控えてきたことで、その他経費で3億1百万円減少

【組織図 ※H20.3.31現在】



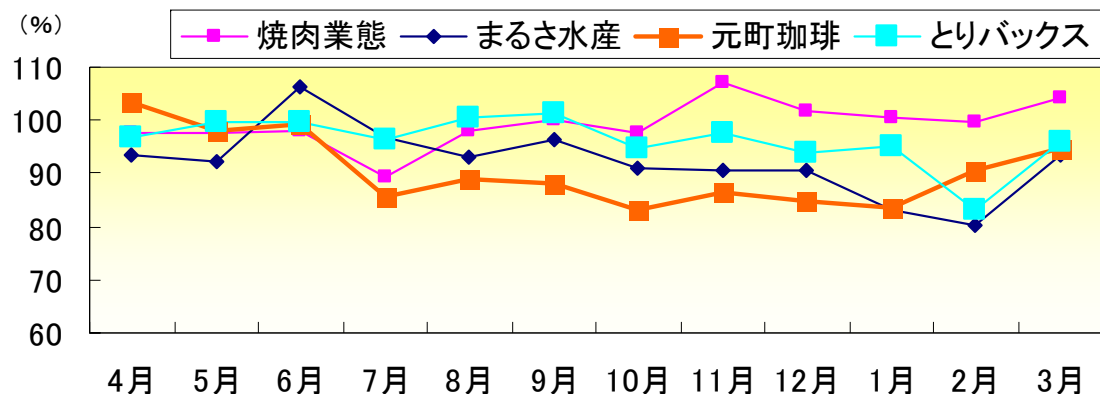
【本部経費の実績推移】

(単位:百万円)

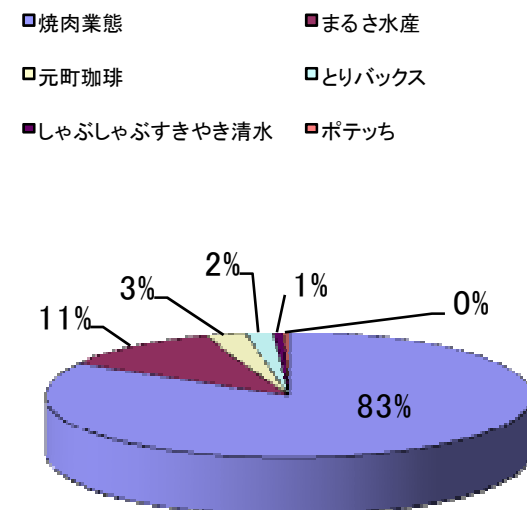


その他の直営事業の状況

【既存店売上高の推移】



【直営事業売上構成比】



1. 直営事業のうち焼肉以外の業態の占める割合は、しゃぶしゃぶすきやき業態への進出により、前年と比べて約1.3%増(直営店売上構成比)。また元町珈琲において店舗増により、構成比が0.5%増加。
2. 既存店の売上高の状況は、焼肉業態などのディナー型業態において特に9月度以降、昨年対比を大きく下回っているが、11月度以降に一部改装に着手した焼肉業態は12月以降の閑散期において回復に転じ、改装、リニューアルの効果が表れていると考えられる。

平成20年3月期 貸借対照表

区分	決算期			前期	
		構成比	増減		構成比
流動資産	932	14.8%	△ 2,011	2,943	34.9%
現金及び貯金	279	4.4%	△ 1,842	2,121	25.1%
棚卸資産	97	1.5%	△ 1	98	1.2%
その他の流動資産	556	8.8%	△ 168	724	8.6%
有形・無形固定資産	3,993	63.5%	△ 1	3,994	47.3%
投資等	1,362	21.7%	△ 139	1,501	17.8%
繰越資産	-	0.0%	0	-	0.0%
総資産	6,288	100.0%	△ 2,150	8,438	100.0%
流動負債	3,305	52.6%	△ 1,202	4,507	53.4%
短期借入金	2,364	37.6%	△ 961	3,325	39.4%
その他の流動負債	941	15.0%	△ 241	1,182	14.0%
固定負債	1,503	23.9%	△ 1,572	3,075	36.4%
長期借入金	1,163	18.5%	△ 1,467	2,630	31.2%
その他の固定負債	340	5.4%	△ 105	445	5.3%
純資産(株主資本)	1,480	23.5%	625	855	10.1%
負債・純資産合計	6,288	100.0%	△ 2,150	8,438	100.0%

資産の部

【期首比較】

流動資産	△2,011百万円
内、現預金	△1,842百万円
(借入、社債の減少)	△2,428百万円)
営業CF	+866百万円
固定資産	△139百万円
店舗改装等による有形固定資産増加	6.9百万円
滞留長期貸付金、破産更生債権の処理による投資	
その他資産の減少	△138百万円

負債・純資産の部

流動・固定負債	△2,747百万円
短期借入 純減	△861百万円
長期借入 純減	△1,467百万円
社債	△100百万円
純資産	625百万円
当期純利益	654百万円
有価証券評価差額金	△2.9百万円

平成20年3月期 キャッシュフローの状況

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	営業活動	法人税等	投資活動	財務活動	残高
当期	866	△ 151	△ 281	△ 2,427	279
前期比	294.6%	-	-	-	13.2%
前期	294	△ 147	589	△ 45	2,121

	当期	前期	増減
	(百万円)	(百万円)	(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
1.税引前当期純利益又は 税引前当期純損失(△)	691	△ 735	1,426
2.減価償却費	237	378	△ 141
3.減損損失	2	457	△ 455
4.貸倒引当金の増減額	△ 431	1	△ 432
5.固定資産除売却損	43	77	△ 34
6.賃貸借契約解約損	20	64	△ 44
7.その他の営業活動	454	199	255
8.金融収支	△ 113	△ 145	32
9.法人税等	△ 38	△ 2	△ 36
営業活動によるキャッシュ・フロー	866	294	572
投資活動によるキャッシュ・フロー			
1.有形固定資産の取得	△ 361	△ 135	△ 226
2.有形固定資産の売却	57	592	△ 535
3.差入保証金の差入による支出	△ 27	△ 12	△ 15
4.差入保証金の返還による収入	46	41	5
5.貸付金の回収による収入	20	54	△ 34
6.その他の投資活動	△ 16	49	△ 65
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 281	589	△ 870
財務活動によるキャッシュ・フロー			
1.短期借入金の純増減額(減少:△)	△ 140	△ 726	586
2.長期借入れによる収入	-	500	-
3.長期借入金の返済による支出	△ 2,186	△ 2,685	499
4.社債の償還による支出	△ 100	△ 100	0
5.配当金の支払額	-	-	-
6.その他の財務活動	△ 1	2,966	△ 2,967
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,427	△ 45	△ 2,382

営業キャッシュ・フロー

仕入債務の減少1億16百万円などの減少要因もありましたが、税引前利益6億91百万円、減価償却費2億37百万円等の計上が主な要因となり、営業キャッシュ・フローは8億66百万円となりました。

投資キャッシュ・フロー

遊休資産の売却に伴う収入57百万円の収入がありましたが、店舗設備の改装や出店に伴う設備投資による有形固定資産の取得による支出361百万円、差入保証金の差入による支出27百万円により、投資キャッシュ・フローは2億81百万円の支出となりました。

財務キャッシュ・フロー

有利子負債の返済に伴い、短期借入金の減少140百万円、長期借入金の減少21億86百万円、社債の償還による支出1億円から、財務キャッシュ・フローは24億27百万円の支出となりました。

店舗数の推移と設備投資の内訳

【業態別店舗数】

		前期末	出店	退店	転換	当期末
焼肉屋さかい	RC	56	3	2	0	57
	FC	27	1	5	0	23
炭火焼肉屋さかい	RC	20	0	0	0	20
	FC	56	3	2	1	58
和牛焼肉坂井	RC	1	0	0	0	1
鮮魚料理まるさ水産	RC	7	0	0	0	7
元町珈琲	RC	2	0	0	1	3
	FC	0	1	0	0	1
しゃぶしゃぶすきやき清水	RC	0	2	0	0	2
とりボックス	RC	2	0	1	0	1
ポテッチ	RC	1	0	0	0	1
休業		2				0
合計		174	10	10	2	174

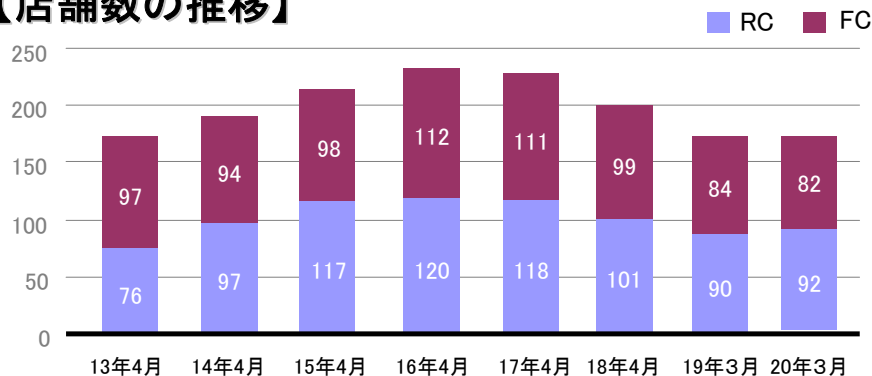
RC計	90	5	3	1	92
FC計	84	5	7	1	82

【店舗数・設備投資】

■ 期末店舗数は前期末174店舗から純増減はないものの、内訳が直営店2店舗増加、FC店2店舗減少と変動いたしました。新規出店は2期ぶりに焼肉屋さかい直営店を出店。また新たに「しゃぶしゃぶすきやき業態」の2店舗を譲受けました。

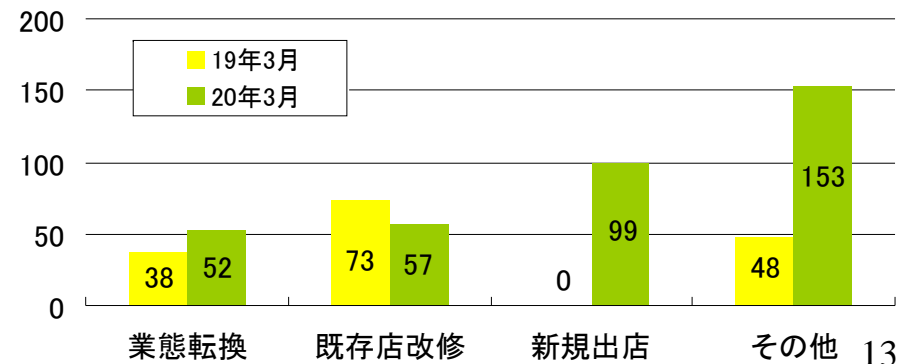
■ 新規投資の99百万円は、しゃぶしゃぶすきやき業態の譲受けを含み、その他における主な内容は新たにレジシステムの入替を直営店全店に対し行ったものや一部店舗の空調設備などの修繕にかかる投資が含まれております。

【店舗数の推移】



【設備投資の比較】

(単位:百万円)



当期の業績予想

平成21年3月期 通期計画

①売上計画

既存店の売上高指標は対前年比でほぼ同一の水準にて設定。これは一部で前年割れの店舗が出てくることが見込まれますが、改装などによる増収効果もあわせて考えられるため、全社ベースでは同一水準としております。

FC向け売上高におきましては、総店舗数は増加見込みであります。前期中に行いました販売価格の低減政策が通年で寄与することから、微減として計画いたしております。

②原価率について

原価はメニューの見直しによる商品施策、不動産賃貸原価の減少見込により、全社ベースにおいて、前期実績から1.0%ダウンの37.9%として計画しております。

③販売管理費について

前期に引き続き、親会社の変更に伴うグループメリットが通年で寄与いたしますが、当期は収益力強化とともに、収支及び顧客数の増加に向けた販売促進活動をはじめ、新規の出店に伴う開業費、PA増加をはじめとする人件費の増加見込みから、売上高からみた構成比率は54.1%と前期実績と同水準であります。総額におきましては3億56百万円の増加を見込んでおります。

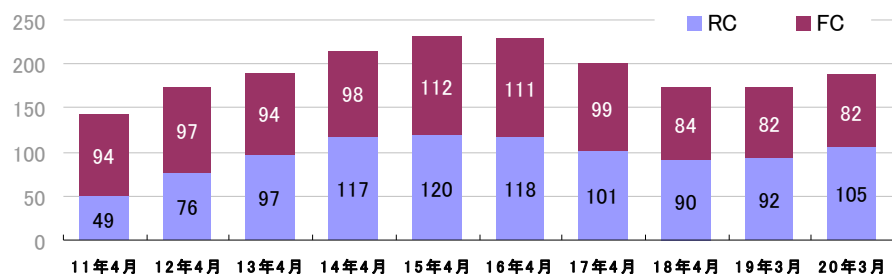
店舗数の推移と設備投資の内訳

【業態別店舗数】

		前期末	出店	退店	転換	当期末
焼肉屋さかい	RC	57	4	0	0	61
	FC	23	0	1	0	22
炭火焼肉屋さかい	RC	20	3	0	0	23
	FC	58	0	1	0	57
その他焼肉等業態	RC	1	2	0	0	3
鮮魚まるさ水産	RC	7	1	0	0	8
	FC	0	0	0	0	0
元町珈琲	RC	3	2	0	0	5
	FC	1	2	0	0	3
しゃぶしゃぶすきやき清水	RC	2	1	0	0	3
とりボックス	RC	1	0	0	0	1
ポテっち	RC	1	0	0	0	1
合計		174	15	2	0	187

RC合計	92	13	0	0	105
FC合計	82	2	2	0	82

【店舗数の推移】

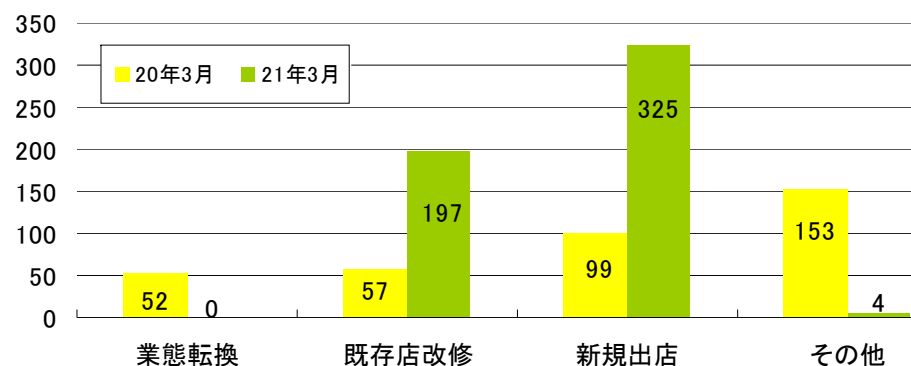


【店舗数・設備投資】

■ 新規出店は、15店舗を計画。(内訳: 直営13店舗、FC2店舗) 新規出店には、既存業態以外の新業態についても2店舗の直営店の出店を計画しております。

【設備投資の比較】

(単位: 百万円)



平成21年3月期 通期業績計画

■通期業績予想

区分	決算期		上期		下期		通期			前期	
			構成比	構成比	構成比	構成比	増減	増減率	構成比	構成比	
売上高	6,121	100.0%	6,001	100.0%	12,122	100.0%	655	5.7%	11,467	100.0%	
RC売上高	4,842	79.1%	4,811	80.2%	9,653	79.6%	839	9.5%	8,814	76.9%	
売上原価	2,332	38.1%	2,261	37.7%	4,593	37.9%	138	3.1%	4,455	38.9%	
売上総利益	3,789	61.9%	3,739	62.3%	7,529	62.1%	517	7.4%	7,012	61.1%	
販売管理費	3,248	53.1%	3,306	55.1%	6,554	54.1%	356	5.7%	6,198	54.1%	
営業利益	541	8.8%	433	7.2%	974	8.0%	161	19.8%	813	7.1%	
経常利益	508	8.3%	399	6.6%	907	7.5%	219	31.8%	688	6.0%	
当期純利益	482	7.9%	341	5.7%	823	6.8%	169	25.8%	654	5.7%	

売上高: 売上高は既存店においては前期実績ベース、計画の増加部分は新規出店および前期中間開店の店舗における年間寄与による増加

原価 : グループメリットを活用した商品開発や供給により、原価率においては全体で37.9% (前期比△1.0%) にて計画

販管費: 前期におけるシフトコントロールによる人件費減少が通期で寄与する見込みですが、新規出店に伴う各費用や人員増により総額は増加予定。

純利益: 有利子負債の減少による支払利息の減少に加え、引き続き税務上の繰越損失により、税負担減少により、過去最高益を計画

新役員体制(平成20年6月25日付)

【新役員】

代表取締役社長	緒方	智	
取締役	乗松	康弘	
取締役	結縄	一広	
取締役(社外)	向井	達彦	【稲畑産業(株) 食品本部畜産グループマネージャー】
取締役(社外)	黒柳	明博	【(株)ジー・コミュニケーション 取締役開発本部長】
監査役	間宮	友久	
監査役(社外)	城	正憲	【顧問弁護士】
監査役(社外)	浅井	真奈美	【(株)ジー・コミュニケーション 経理部次長】